

生活者ネット こくぶんじ No.176 2024年7月

発行/国分寺・生活者ネットワーク 発行責任者/田中由紀
連絡先/〒185-0024 国分寺市泉町3-33-16 西国分寺ハイソ103
TEL:042-328-1864 FAX:042-328-1878
http://kokubunji.seikatsusha.me/ E-mail:kokubunji@seikatsusha.net



国分寺市議会議員
たかせ
高瀬かおる



国分寺市議会議員
こさか
小坂まさ代



国分寺市議会議員
まつおか
松岡まり

子どもたちのための中学校給食へ

学校給食は1954年制定の「学校給食法」に基づいて提供されていますが、2008年に大幅に改正され、「学校における食育の推進」が新たに規定されました。学校給食は、健康と成長を支える「食事」であると同時に、生涯にわたって健康的な食生活を送るための重要な「食育」の場でもあります。

全国で進む小中学校の給食費無償化

2017年度、小中学校とも学校給食費の無償化を実施しているのは完全給食を実施する自治体のうち76自治体でした。その後、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用し、子育て世帯への経済的負担軽減のため、学校給食費の無償化を実施する自治体が増加し、日本農業新聞の調査によれば、2022年度は無償化を実施した自治体は、全国約1600市区町村の約3割に当たる451となりました。

国分寺市は2024年度の2学期より無償化

国分寺市では2022年度より食料費高騰分は公費負担し、給食費は値上げせずに給食を提供してきましたが、



国分寺市でも市民の声が高まり、市議会でも全会派が要望してきたこともあり、2学期からの実施が決まりました。そのため、今年度は市の一般財源から約1億7000万円を充当することにしています。都の補助を受けても財政状況から無償化に踏み切れない自治体もあり、格差が生じています。国が責任を持って全国で無償化するべきと考えま



国分寺市の中学校給食の課題

また、無償化により質が落ちることのないよう引き続き学校給食食材選定基準をしっかりと守っていくことを求めます。

国分寺市の中学校給食は、弁当併用外注方式で、持参弁当は、日野市にある事業者が1日に約2000食を当日調理し各中学校の希望者に配送していますが、アレルギー対応はしていません。

持参弁当の場合は無償化の対象外ですが、アレルギーなどで給食が食べられない場合には給食費と同額を補助することになりました。しかし、保護者の経済的負担軽減、子育て支援を目的とするのであれば、公平性の観点から不登校

児童生徒を含め、全ての児童生徒を対象とすべきです。市には今後の検討を求めました。昨年11月には、中学校でもアレルギーや宗教、思想上の理由など諸事情を持つ子どもたちを含め全員が給食を食べられることを求める陳情が出され、現在も審査中です。弁当併用外注方式をとっている自治体は国分寺市他、東村山市、東久留米市のみです。東村山市では、昨年、市議会において「東村山の中学校に温かい全員給食を求める陳情」が全員賛成で採択され、2026年度中の実現を目指し公募型プロポーザルで委託事業者選定をすすめており、今年8月末までに契約締結の予定です。国分寺市でも小学校のように温かい給食が提供できる仕組みについて、庁内で検討委員会を設置する方向ですが、当事者である中学生や市民、有識者が参加し検討する場が必要です。食べることは生きる力に直結しています。市民参加で広く声を集め、子どもの育ちにとって必要な学校給食のあり方を考え、実施していくことは喫緊の大きな課題です。(小坂まさ代)

6月25日 学習会 「ツバメが安心して子育てができるやさしいまちをめざして」

遠い南の国から今年もツバメが帰ってきました。市内でも巣を作り「ツイツイ」と飛び回る様子が見られます。ツバメはどんな鳥なのか、子育てができるためにはどんな環境が必要なのか。ツバメとの共生に向けた調査や研究をされている渡辺仁さん(NPO東京生物多様性センター)を講師にお話を伺いました。渡辺さんは、40年以上前より多摩市のツバメ調査等を手がけています。ツバメの研究はまだまだ分からないことも多く、巣の場所や目撃情報など継続した調査が必要です。最近では今まで感じられなかったツバメの飛来の減少も実感しているとのことと心配です。環境保全はもとより、ツバメは天敵から巣を守るために人の暮らしにあえて寄り添い、人通りの多い場所や賑わいのある場所を求めるところ、市民の理解や糞害等を防ぐ工夫など、ツバメと共存していくための施策や啓発が必要です。



学習会の後半は、近くのツバメの巣を実際に見に行きました。西国分寺駅の巣ではヒナが孵ってかわいい姿が見えました。あるマンションでは、「見守りましょう」の温かいメッセージがあり、ある場所では巣を作れないようにしてありました。ツバメに着目することで、生物多様性を維持していくために、何より大切なことは人の理解であることも改めてわかりました。生き物や環境を受け入れ見守るおおらかさ、自然の面白さや楽しさを発見する人が広がりますように。(加瀬よりえ)

7月5日 学習会 「有機(オーガニック)農業と生物多様性」

講師の吉田順さん(元オーガニック検査員)との出会いは数年前のゲノム編集食品の学習会でした。ご自宅で畑を作っているということで、早速見せていただきました。造成地の土を畑の土壌に入れ替え、ジャガイモ・ナス・トマト・イチジクなどたくさんの種類の作物が無農薬で元気に育っていました。生きた土となりミズも戻ってきた話を聞き、こうした地域の一步が土や生態系へ影響を及ぼすというお話を伺いたいと企画しました。当日は、専門家の視点で基本的なこと、素朴な疑問、歴史や現状の問題点まで掘り下げていただきました。

「オーガニック給食になったらいいな」「国分寺の畑でも有機農業はできる?」など「オーガニック」をのぞむ声もたくさん寄せられています。一方、「都市農業を残すことが大事」「業務用にはある程度の農業使用は避けられない」との声もあります。国分寺で有機農業はできるのか?オーガニックな学校給食は実現できるのか?引き続き話し合っていきたいと思います。(加瀬よりえ)



みなさまの「ひとこと」から、政策が生まれます。

今年も、ひとこと提案の活動を行っています。お寄せいただいた意見は、市政・都政への要望や提案に生かしていきます。子どものことや日々の暮らしやまちで気がついたことや「こんなことあったらいいな」と思うことなどお気軽にメールでお寄せください。



国分寺市のプラスチックごみ回収有料化による減量の成果についてシール投票

kokubunji@seikatsusha.net

このレポートは、UDフォントを使用しています。